

茨城県生物多様性センター一年報

No. 9 令和 5（2023）年度版

令和 5（2023）年 4 月 ～ 令和 6（2024）年 3 月

茨城県県民生活環境部環境政策課
生物多様性センター

まえがき

当センターは、平成27(2015)年4月、生活環境部（現県民生活環境部）環境政策課に設置され、令和6(2024)年3月で9年が経過しました。設置以来、本県における生物多様性の保全とその啓発普及に取り組み、国や県の研究機関をはじめ、環境諸団体や県民との情報共有に努めるとともに、各種調査や事業を実施して参りました。

多様性保全の象徴的存在といえる希少動植物の中でも、日本固有で筑波・加波山塊にのみ生息するツクバハコネサンショウウオは特異な存在です。その詳細な生息状況を調べるため、令和元年度から行われてきた現地調査は令和3年度で終了しましたが、環境DNAによる調査は、引き続き城西大学の協力を受けて実施しております。これら二つの手法を組み合わせることによって、より詳細な生息状況が明らかになりつつあり、本種の保全に不可欠な情報を提供できるものと期待されます。

日本固有で、妙岐ノ鼻湿原にのみ分布するカヤツリグサ科の一種、カドハリイ（令和4(2022)年、国内希少野生動植物種に指定）については、群落の保護だけでなく、生育環境である湿原そのものの保全が課題となっています。湿原への火入れ作業に参加するとともに、妙岐ノ鼻の湖岸に侵入したナガエツルノゲイトウのカドハリイ生育区域への拡大を防ぐため除去作業を行いました。

また、本年度は、「茨城における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012 年改訂版（茨城県版レッドデータブック）」の見直しという大きな作業に着手しました。

一方、近年増加の一途をたどる外来生物の中でも、主にサクラ・モモなど、バラ科の樹木を食害するクビアカツヤカミキリとヤナギ科をはじめとする広範な樹種に被害を与えるツヤハダゴマダラカミキリの侵入・定着は極めて深刻な事態になっています。これら特定外来生物の県内への定着と分布拡大を受けて、県政出前講座を開催するなど、啓発に力をいれました。また、新利根川を中心とするナガエツルノゲイトウの繁殖拡大についても、定期的にモニタリングを実施しています。さらに、散発的な侵入はみるが未定着のキョンについては、県自然博物館など、県内研究機関との連携を強化して侵入状況の監視を行っています。

令和5年3月には環境省が「生物多様性国家戦略 2023-2030」を策定しました。この中では、新たに目指すべき目標として自然を回復軌道に乗せるキーコンセプト「2030 年ネイチャーポジティブ」を掲げています。当センターもこの目標に注目しつつ、一層、生物多様性の回復・保全に取り組む所存です。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和6年8月
茨城県県民生活環境部環境政策課
生物多様性センター長 山根爽一

妙岐ノ鼻湿原

目 次

I 生物多様性センターの概要	3
II 主な活動実績	
1 普及啓発事業	
(1) 国内希少野生動植物種（カドハリイ）の保全啓発	4
(2) 生物多様性および特定外来生物の啓発	4
(3) 特定外来生物の除去など、啓発イベントの支援	4
(4) 環境関連イベントへの出展	6
(5) 講座・講演の実施	6
(6) 筑波山臨時ビジターセンター	7
(7) 他自治体への委員派遣	7
2 情報の収集及び提供	
(1) 生物多様性関連の会議等への参加	8
(2) 特定外来生物関連の相談対応・情報の提供	8
(3) データベースの公開	8
(4) ホームページの活用	8
III 調査・研究・対策	
1 調査・研究	
(1) 「レッドリスト（植物編）2012年版」の見直しと植物調査	9
(2) ツクバハコネサンショウウオの環境 DNA による生息状況調査	10
(3) 外来カミキリ類の生息状況調査	10
(4) その他の調査	11
(5) 多様性の保全に関する刊行物	11
2 対策	
(1) 新利根川流域における特定外来生物（植物）の除去	11
(2) 特定外来生物 オオバナミズキンバイの防除	12
(3) 希少野生動植物の保護	13

I 生物多様性センターの概要

1 設置の目的

県が平成26（2014）年10月に策定した「茨城の生物多様性戦略」に基づき、生物多様性関連施策の推進拠点として、平成27（2015）年4月1日に設置。

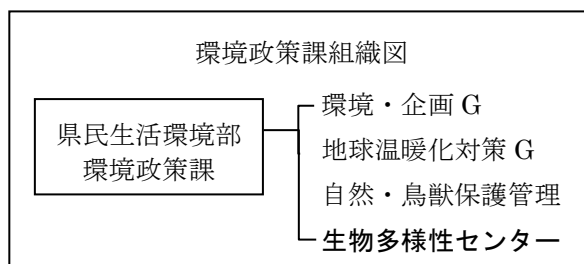
2 組織（令和5（2023）年4月1日現在）

右図のように、茨城県県民生活環境部環境政策課に属し、一体となって業務を推進している。

【職員構成】

センター長を含め、9名の職員で構成。

センター長（非常勤）、副参事（自然・鳥獣保護管理グループ兼務）、課長補佐（自然・鳥獣保護管理グループ課長補佐兼務）、主査2名、会計年度任用職員4名（国定公園管理員2名、自然環境調査員2名）



3 主な業務

① 地域戦略の普及啓発

講演会や県民との意見交換会等を通じ「茨城の生物多様性戦略」の普及啓発を行う。

② 茨城県の生物に関する情報の収集及び発信

県や研究機関、市町村、環境団体などが持つ県内の生物に関する情報を収集し、広く県民に発信する。

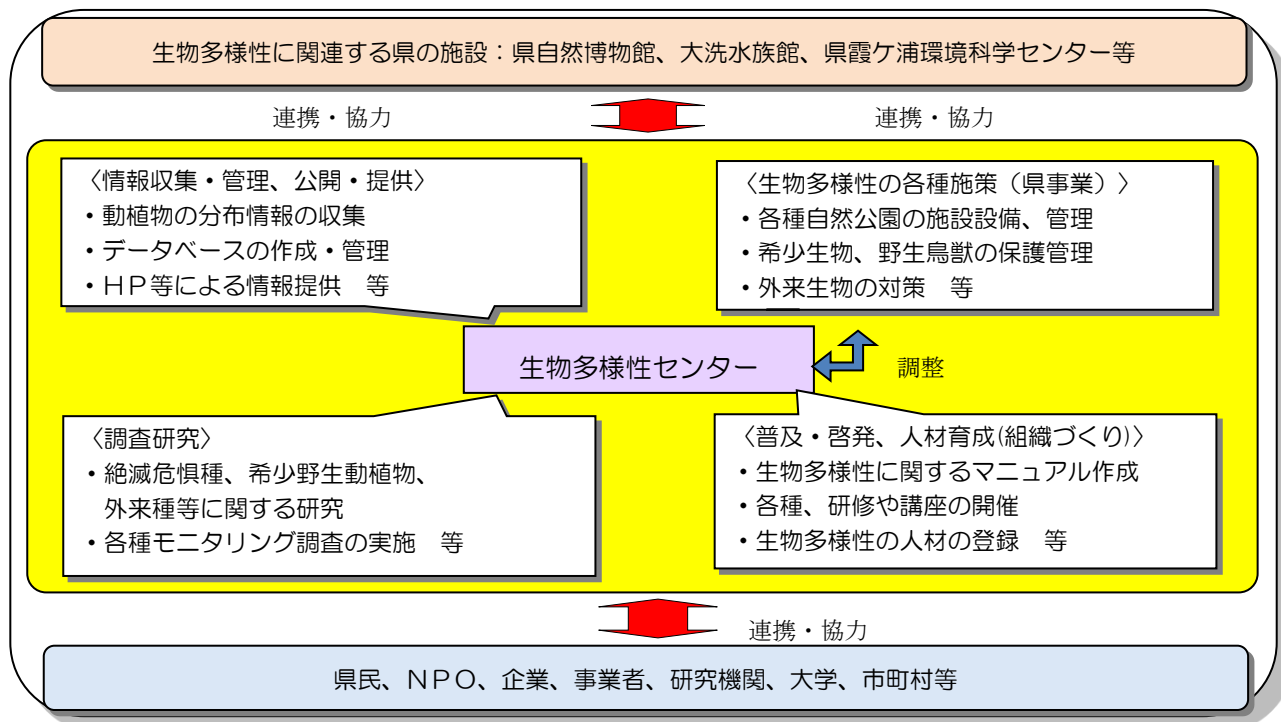
③ 環境団体等との連携

県内外の環境団体との情報の共有を進め、各種調査や外来生物防除対策への協力体制を構築する。

④ 各種調査の実施

希少野生生物の現状把握や外来生物の侵入・定着状況を把握するための調査を実施する。

【茨城の生物多様性戦略における生物多様性センターのイメージ】



Ⅱ 主な活動実績

1 普及啓発事業

(1) 国内希少野生動植物種（カドハリイ）の保全啓発

カヤツリグサ科の一種カドハリイ（*Eleocharis tetraquetra* var. *tsurumachii*）は、霞ヶ浦南西部の妙岐ノ鼻湿原（稲敷市）でのみ生息が確認されているが、湿原の生態遷移による乾燥化の進行などにより生存が脅かされている。そのため、環境省によって令和4（2022）年に「種の保存法」に基づく国内希少野生動植物種の指定を受けた。本県のみが生息する種としては、ツクバハコネサンショウウオ（*Onychodactylus tsukubaensis*, 平成27（2015）年指定）に次ぐ2例目の指定である。

妙岐ノ鼻は面積が50haに及ぶ霞ヶ浦最大の湿原で、カドハリイの他、カモノハシ、ナガボノシロワレモコウ、シロネなどの湿原植物や、シロネを食草とする甲虫の一種、オオルリハムシなどの希少種をはじめ多種多様な生物が生息している。鳥類でも、オオセッカやコジュリンなどの繁殖地として、また、チュウヒなど、渡り鳥の越冬地としても重要な場所である。

カドハリイと妙岐ノ鼻湿原の生物多様性を保全するために、その生態を分かりやすく解説したリーフレットを作成し関係機関やイベントを通して配布してきた。また、カドハリイの樹脂封入標本作製したが、引き続き博物館等に貸し出しを行っている。

(2) 生物多様性および特定外来生物の啓発

生物多様性と特定外来生物の啓発に、「生物多様性って知っていますか？」と「県内の主な特定外来生物（植物）」を表裏両面に印刷した既存の解説リーフレットを、本年度も県内の環境関連イベント等で配布した。さらに、「クビアカツヤカミキリの早期発見および駆除について」のリーフレットも関係機関やイベント等で配布した。

(3) 特定外来生物の除去など、啓発イベントの支援

生物多様性の重要性を啓発するとともに、生物多様性を保全する活動の促進を目的として、各種団体等が実施する特定外来生物（植物）除去のイベントを支援した。新型コロナウイルス感染症による行動規制は令和5年6月に緩和されたが活動は制約を受けた。しかし、生物多様性の保全についての市民の理解を深め、地域の自然環境への関心を高める契機とすることができた。

① かすみがうら市（旧霞ヶ浦町地域が中心）オオキンケイギク除去

実施日：令和5年5月9日（火）

参加団体／参加者数：かすみがうら市よもぎ会、かすみがうら市環境保全課 10名

② 県道31号線から多良崎城跡への分岐点オオキンケイギク除去

実施日：令和5年5月20日（土）

参加団体／参加者数：工機ホールディングス（株）、ひたちなか市環境政策課 11名

③ 銚田市（旧銚田町・旧旭村地域中心）オオキンケイギク除去

実施日：令和5年5月21日（日）

参加団体／参加者数：銚田市、銚田市まちづくり推進会議環境部会 10名

④ 水戸市逆川緑地外来生物除去

実施日：令和5年5月27日（日）

参加団体／参加者数：逆川こどもエコクラブ 30名

⑤ 笠間東工業団地入口オオキンケイギク除去

実施日：令和5年5月27日（土）

参加団体／参加者数：笠間市環境を考える会、笠間市環境政策課 48名

⑥ ひたちなか市佐和地区オオキンケイギク除去

実施日：令和5年5月28日（日）

参加団体／参加者数：さわ野杜自治会、ひたちなか市の環境を良くする会、ひたちなか市環境政策課 35名

⑦ ひたちなか市足崎オオキンケイギク除去

実施日：令和5年5月28日（土）

参加団体／参加者数：ひたちなか市の環境をよくする会、ひたちなか市環境政策課 11名

⑧ 銚田市環境学習施設エコ・ハウス周辺オオフサモ除去 雨のため中止

⑨ 水戸市逆川緑地外来生物除去

実施日：令和5年6月17日（土）

参加団体／参加者数：逆さ川こどもエコクラブ、ホタルネットワーク mito 50名

⑩ 水戸市茨城セブンの森外来生物除去

実施日：令和5年6月17日（土）

参加団体／参加者数：ホタルネットワーク mito、逆川こどもエコクラブ 73名

⑪ 城里町小勝オオハンゴンソウ除去

実施日：令和5年8月31日（木）

参加団体／参加者数：城里町町民課 4名

⑫ 常陸太田市里川地区オオハンゴンソウ除去

実施日：令和5年9月1日（金）

参加団体／参加者数：常陸太田市 5名

⑬ 常陸大宮市高部オオハンゴンソウ除去

実施日：令和5年9月6日（水）

参加団体／参加者数：常陸大宮市生活環境課、常陸大宮市森林組合 10名

⑭ 大子町八溝山日輪寺オオキンケイギク除去

実施日：令和5年10月6日（金）

参加団体／参加者数：大子町 4名



オオキンケイギク抜き取り作業
（かすみがうら市、令和5年5月9日）



オオハンゴンソウの抜き取り作業
（常陸大宮市、令和5年9月6日）

（４）環境関連イベントへの出展

新型コロナウイルス感染症による行動規制は緩和されたが、県内では多くのイベントが今年度も中止された。開催されたイベントでは、生物多様性等の啓発パネルの展示や啓発チラシの配布を行った。

① 常設展示

実施日：令和５年４月１日（土）～令和６年３月３１日（日）

会 場：県庁行政棟２階県民広報コーナー

内 容：生物多様性に関するパネルの展示

② 「世界生物多様性の日（５月２２日）」関連展示：テーマ「茨城県における希少生物」

実施日：令和５年５月１７日（水）～５月２６日（金）

会 場：県庁行政棟２階県民広報コーナー

内 容：パネルと標本の展示 カドハリイが国内希少動植物種に指定される／カドハリイの生育している
妙岐ノ鼻湿原の植物の紹介（写真・標本）／カドハリイの近縁なハリイの紹介（標本）／「ツク
バハコネサンショウウオ」の紹介／茨城県における絶滅のおそれのあるチョウの紹介３３種（標
本・解説）

③ 土浦市環境展

実施日：令和５年１０月７日（土）

会 場：土浦市 霞ヶ浦文化体育会館

内 容：生物多様性に係るパネルの展示

④ 環境学習フェスタ（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

実施日：令和６年２月１０日（土）

会 場：茨城県霞ヶ浦環境科学センター

内 容：生物多様性に係るパネルの展示

（５）講座・講演の実施

出前講座や講演など６件を実施した。

① 常陽藝文学苑講座「茨城の生物多様性を考える」

実 施 日：令和５年４月～６月

第１回：４月２２日（土）

第２回：５月２７日（土）

第３回：６月２４日（土）

場 所：つくば市、常陽つくばビル４Ｆ

講 師：山根爽一（茨城県生物多様性センター）

参加者数：一般市民 延べ３０名

② ホテル日航つくば迷路アート除幕式 講演

「筑波・加波山塊にひっそり暮らすツクバハコネサンショウウオ」

実 施 日：令和５年６月１０日（土）

場 所：つくば市、ホテル日航つくば

演 者：山根爽一（茨城県生物多様性センター）

参加者数：一般市民 ３０名

③ 笠間市立笠間小学校 出前講座「生物多様性とはなにか：生物多様性を守るには」

実施日：令和5年7月24日（月）

場 所：笠間市 市立笠間小学校

講 師：山根爽一（茨城県生物多様性センター）

参加者数：第6学年児童 30名

④ 東海村講座「茨城の生物多様性を考える」

実施日：令和5年12月16日（土）

場 所：東海村 歴史と未来の交流館

講 師：山根爽一（茨城県生物多様性センター）

参加者数：一般市民 30名

⑤ 来訪学習「生物多様性について」

実施日：令和5年12月28日（木）

場 所：茨城県生物多様性センター

講 師：茂垣はるえ（茨城県生物多様性センター）

参加者数：中学1年生（水戸第一高等学校附属中学校）5名

⑥ 古河市立馬込小学校 出前講座「生物多様性と外来カミキリムシについて」

実施日：令和6年2月14日（水）

場 所：古河市立馬込小学校

講 師：佐々木泰弘・井上尚武（茨城県生物多様性センター）

参加者数：第4学年児童 22名

（6）筑波山臨時ビジターセンター

例年、国民の祝日「山の日」（8月11日）の前後に開催する筑波山臨時ビジターセンターは、新型コロナウイルス感染症が未収束のため、期間を短縮しミニ観察会を省略するなどして変則的に実施した。

実施日：令和5年8月5日（土）～8月6日（日）

会 場：筑波山ケーブルカー 筑波山頂駅 2階

内 容：パネルと標本展示（筑波山の動物・昆虫・植物・岩石）による筑波山の紹介

（7）他自治体への委員派遣

① 生物多様性つくば戦略策定懇話会（座長 筑波大学教授 上条隆志）

茨城県および学識経験者の委員として、当センターから山根爽一が派遣された。

令和5年度は第4～6回の委員会に出席し、つくば市で保全すべき地域や生物種について意見を述べた。

② 2023年度 茨城町再生可能エネルギービジョン策定委員会（委員長 環境省環境カウンセラー 川島省二）

生物多様性グループの委員として、当センターから山根爽一が派遣された。

第1回（令和5年9月）および第2回（11月）の委員会に出席し、町内におけるソーラー発電施設設置の適地について、生物多様性の観点から意見を述べた。

2 情報の収集及び提供

(1) 生物多様性に関する会議等への参加

① 第26回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC 26）

環境省生物多様性センターの主催で行われた生物多様性に関する会議で、当センターはそのうちの連絡会議にオンラインで参加した。

開催日：令和5年11月2日（木）～3日（金）

2日はNORNAC構成機関による連絡会議及びエクスカージョン、3日は調査研究・活動事例発表会及びシンポジウム

会場：兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）

事務局：環境省自然環境局生物多様性センター

ホスト機関：兵庫県立人と自然の博物館

② 令和5年度6都県クビアカツヤカミキリ調整会議

栃木県の主催で行われた、クビアカツヤカミキリ対策の調整に関するオンライン会議。

実施日：令和5年9月28日（木）

参加自治体：栃木県、茨城県、東京都、埼玉県、神奈川県、群馬県

(2) 特定外来生物関連の相談対応・情報の提供

特定外来生物に関する県民からの問い合わせや情報提供を受け付けている。内容は不明種の同定依頼や特定外来生物の駆除および処置についての相談が中心で、ヒアリやアカミミガメ、カミツキガメ等外来生物に関するものが多かった。令和5年度は全体で185件以上の各種問い合わせがあったが、そのうち110件程度は特定外来生物に関わる内容（誤認も含む）であった。問い合わせ内容については、必要に応じて現地調査を実施した。また、令和元年(2019)年に本県から初めて発見されたクビアカツヤカミキリについては、令和5年度現在、古河市と五霞町で被害が確認されていることから、早期発見と駆除を呼びかけるチラシ「特定外来生物クビアカツヤカミキリの早期発見および駆除について」（改訂版）を配布した。

(3) データベースの公開

平成28(2016)年度に茨城の野生動植物データベース（URL <https://tayousei.pref.ibaraki.jp/>）を開設し、レッドデータブック（植物編2012年版、動物編2016年版、及び蘚苔類・藻類・地衣類・菌類編2020年版）の掲載種を検索できるよう公開した。さらに、生物文献データベースには、県内の在野の同好者や研究者による生物系同好会誌や研究会誌などの逐次刊行物に掲載された文献の概要を順次公開し、充実を図っている。

(4) ホームページの活用

生物多様性についての理解を深め、生物多様性を保全するため、ホームページなどを使って活動情報の発信を行った

生物多様性センターURL：<https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/shizen/tayousei/index.html>

顧問：福田良市（茨城植物研究会）

顧問：藤田弘道（茨城植物研究会）

顧問：安 昌美（茨城植物研究会）

○見直し検討委員会開催実績（令和５年度）

第１回 開催日：令和５年５月１９日（金）

第２回 開催日：令和５年８月２３日（水）

第３回 開催日：令和５年１１月２９日（水）

第４回 開催日：令和６年１月３１日（水）

＊令和４年度に「茨城県レッドリスト 維管束植物検討委員会（仮称）準備委員会」を、令和５年５月に「茨城における絶滅のおそれのある野生植物種の見直し検討委員会」を正式に立ち上げた。

（２）ツクバハコネサンショウオの環境 DNA による生息状況調査

令和３年度まで実施したツクバハコネサンショウオの現地における生息状況の調査結果をベースに、環境 DNA の分析による分布の推定を行った。昨年度に続き専門家の助言によりいくつかの沢を選んで沢水を採取し、城西大学理学部（石黒直哉教授）において DNA を分析した。サンプルの採取や PCR の手法を色々試みることによって、溪流における環境 DNA を正確に検出する技術の確立に努めた。

（３）外来カミキリ類の生息状況調査

県内に広がりつつある外来のカミキリ２種（クビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリ）の生息状況を調べるため、５件の現地調査を行った。

① 土浦市ツヤハダゴマダラカミキリ調査

実施日：令和５年６月１９日（水）

場 所：土浦市ふじさわ児童公園

参加団体：多様性センター（佐々木）

土浦市役所 ２名

② 古河市公方公園クビアカツヤカミキリ・ツヤハダゴマダラカミキリ調査

実施日：令和５年６月２６日（月）

場 所：古河市公方公園

参加団体：多様性センター（井上、佐々木）

古河市役所、公園管理事務所 ６名

③ 古河市、結城市クビアカツヤカミキリ・ツヤハダゴマダラカミキリ調査

実施日：令和５年７月２６日（水）

場 所：古河市本町四季の径、結城市上山川

参加団体：多様性センター（井上、佐々木）

古河市役所、結城市役所 ４名

④ 笠間市芸術の森公園ツヤハダゴマダラカミキリ調査

実施日：令和５年８月１２日（土）、２３日（月）

場 所：笠間市芸術の森公園

参加団体：多様性センター（佐々木、井上）

笠間市役所、県都市整備課公園緑地 G、公園管理事務所

水戸土木事務所 ６名

⑤ 県西総合公園・砂沼広域公園ツヤハダゴマダラカミキリ調査

実施日：令和5年9月20日（水）

場 所：県西総合公園（筑西市）・砂沼広域公園（下妻市）

参加団体：多様性センター（佐々木）

県公園管理事務所 4名



ツヤハダゴマダラカミキリ調査
（古河市公方公園 令和5年7月26日）



ツヤハダゴマダラカミキリ調査
（県西総合公園 令和5年9月20日）

（4）その他の調査

- 「茨城県版レッドデータブック」や「茨城の外来種データブック 2023 年版」に掲載された希少生物種や外来種を中心に、随時、県内の動植物等の生息状況を調査した。
- 未侵入特定外来生物のうち、特に侵入を警戒すべき動植物（キョン、カミツキガメなど）について、ホームページやチラシを配布して、目撃情報等の提供を県民に広く呼びかけるとともに、随時現地調査を実施した。

（5）生物多様性に関する刊行物

- 諸岡歩希・海老澤武尊・中村千帆・佐々木泰弘. 2023. 茨城県におけるアカボシゴマダラ *Hestina assimilis*（チョウ目、タテハチョウ科）の分布拡大に関する考察. 茨城県自然博物館研究報告, (26): 53-62.
- 廣瀬健伸・廣瀬暁子・木下美弥・木下 潔・山根爽一. 2023. 茨城県つくば市街地の都市公園である洞峰公園および赤塚公園の野鳥. 茨城県自然博物館研究報告, (26): 137-152.
- 石黒直哉. 2024. 「令和5年度希少野生生物分布調査にかかる環境 DNA 分析 報告書. 11 pp., 茨城県県民生活環境部環境政策課 生物多様性センター.（非公開）

2 対 策

（1）新利根川流域における特定外来生物（植物）の除去

新利根川（支流河川及び幹線排水路を含む）におけるミズヒマワリ、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウの除去を推進するため、関係機関との連絡協議会開催等を行った。

○新利根川流域ミズヒマワリ等除去に係る連絡協議会の開催

前年度に続き、新利根川流域ミズヒマワリ等除去に係る連絡協議会を開催し、関係機関と情報の共有及び意見交換を行った。

・協議会における確認、協議事項

- ① 新利根川流域地域におけるミズヒマワリ等の生育状況
- ② 構成団体の活動状況
- ③ 広報・啓発の実施
- ④ 防除実施計画の策定・変更

・構成団体

茨城県、龍ヶ崎市、稲敷市、河内町、利根町、新利根川土地改良区、豊田新利根土地改良区

・連絡協議会の開催

第1回連絡協議会

日 時：令和5年6月30日（金）

内 容：ミズヒマワリ等の生育状況、構成団体の活動計画等について

第2回連絡協議会

日 時：令和6年1月23日（火）

内 容：ミズヒマワリ等の生育状況、構成団体の活動状況、県農林水産部の農業被害対策等について

○新利根川流域における特定外来生物（植物）定期巡視による繁茂状況の調査

第1回 令和5年4月12日、4月14日

第2回 令和5年6月6日、6月14日

第3回 令和5年9月15日、9月22日

第4回 令和5年12月15日、12月19日

第5回 令和6年2月1日、2月3日

（2）特定外来生物 オオバナミズキンバイの防除

○関係機関と連携した除去

オオバナミズキンバイは、平成29（2017）年に霞ヶ浦（土浦市田村町）で定着が確認され、関係機関が連携して群落の早期除去を実施してきた。令和5年度は自然再生区（土浦市沖宿町）における防除作業に2回参加した。

実施日：令和5年7月21日（金）

場 所：土浦市沖宿町自然再生区

参加団体／参加者数：国交省霞ヶ浦河川事務所、（国研）農研機構、県自然博物館、茨城県霞ヶ浦環境科学センター、茨城県生物多様性センターから3名、26名参加

実施日：令和5年11月20日（月）

場 所：土浦市沖宿町自然再生区

参加団体／参加者数：国交省霞ヶ浦河川事務所、（国研）農研機構、県自然博物館、茨城県霞ヶ浦環境科学センター、生物多様性センターから4名、約60名参加



オオバナミズキンバイの除去作業風景
(土浦市沖宿町、令和5年11月20日)

(3) 希少野生動植物の保護

① 妙岐ノ鼻湿原

妙岐ノ鼻湿原は、オオセッカやチュウヒ等の希少な鳥類の他、300種を超える植物が生息するなど、生物多様性の高い地域である。また、妙岐ノ鼻湿原に生育する茅は良質で、古くから萱場として採取・利用され、水戸好文亭を始め歴史的文化財を維持・補修するために用いられている。妙岐ノ鼻湿原は、人が自然からの恵みを享受しながら、人と自然との共生により好循環が保たれている生態系である。

この貴重な湿地環境を保全するため、従来から国土交通省霞ヶ浦河川事務所と(独)水資源機構利根川下流総合管理所が、河川管理行為として同湿原のヨシ焼きを主導してきた。令和5年度は、同年に霞ヶ浦河川事務所が創設した「妙岐ノ鼻公募型環境管理」制度により実施された。これによりヨシ焼きは、令和6年3月5日に行われ、生物多様性センターからも3名が参加した。

ナガエツルノゲイトウの駆除：令和4(2022)年にカドハリイの生育地である妙岐ノ鼻湿原にナガエツルノゲイトウ(特定外来植物)の侵入を確認したため、昨年度に引き続き、国土交通省霞ヶ浦河川事務所と(独)水資源機構利根川下流総合管理所、稲敷市などの協力を得て、1回の除去を実施した。現在のところ、ナガエの侵入エリアは湖岸部に限られている。内陸部はヨシが繁茂しているので地面の日当たりが悪く、予断は許さないが急速な分布拡大はないものと予想される。

実施日／参加者数：令和5年10月18日(水)9名、除去量：45L袋23個

② 神栖市および行方市に飛来したコウノトリ

千葉県野田市などが放鳥した複数のコウノトリが近年、神栖市の利根川下流域に長期滞在するようになり、営巣活動も見られている。

令和5年度は行方市にも飛来した。昨年度に引き続き、神栖市やIPPM-OWS(コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル)などの関係機関と保護策を協議・検討するとともに、先進自治体等から情報収集を行い、以下のように繁殖状況に関する情報を得た。

○ 神栖市太田(日和山)「電柱」

ふ化 2羽 親：JO310(オス3歳 千葉県野田市)・JO214(メス5歳 兵庫県養父市)

3月31日初卵、5月3日ふ化(推定・確認)、6月15日足環装着

○ 神栖市矢田部(川尻)「第1人工巣塔」

ふ化 2羽 親：JO329 わたる（オス3歳・渡良瀬）・JO342 のぞみ（メス2歳・渡良瀬

4月9日産卵、5月15日ふ化（確認）、6月26日足環装着 ※わたるとのぞみは、異母兄妹

○ 行方市三和「ソフトバンクモバイル携帯基地局鉄塔」

ふ化 4羽 親：みずき（オス2歳 千葉県野田市）・（メス4歳 福井県坂井市）

5月22日頃営巣確認、6月15日ふ化（確認）、6月26日足環装着（うち1羽が死亡していた）



巣からヒナを捕獲するための作業車
(いずれも神栖市、令和5年6月15日)



足環装着と健康診断が終わった直後のヒナ

茨城県生物多様性センター年報

No. 9 令和5（2023）年度版

発行日：令和6（2024）年8月1日

編集／発行：茨城県県民生活環境部 環境政策課

茨城県生物多様性センター

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978 番 6

電話：029-301-1111（代表）